

令和6年度 多摩市小学校校長会

I 活動方針・重点項目等

昨年5月、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症に変更されて、日常生活における制限が緩和され、コロナ禍前の学校生活が徐々に取り戻りつつある。一方で感染症は、季節に関係なく突然流行することがあることや健康であってもマスクを外せない一定数の子供が目立つことなどから、感染症予防への配慮はいまだに欠かせない状況が続いている。

この数年間には実施できなかった学校行事や地域の行事等が復活し、再開されるようになったことに伴い、教員の在勤時間は再び増加傾向にある。教員の働き方改革が常に話題になり、各学校においても様々な工夫が試行される中で、「実施したくてもできなかった活動は何か、なくしてはならない実践はどのようなことか」・・・子供を育てる場である学校としての視点に立ち、校内で十分な議論を重ね、実態に応じた新たな学校教育を構築していくことが必要である。

また、「GIGAスクール構想」に基づき、本市においてタブレット端末が一人一台整備され、児童、教員ともに機器の活用スキルが日ごとに高まってきていることにより、より質の高い教育活動の実施が期待され、個別最適化された学びへの活用を推進することが求められる。市小学校教育研究会各部会での研修、市教委主催の様々な研修等、本市の教員が学ぶことができる限られた機会を最大限に生かしていくことも考えなくてはならない。

特別な支援を要する児童の通常の学級への入学、特別支援教室入級希望や特別支援学級への転学希望の増加が顕著にみられ、マネジメントチームをはじめとする関係諸機関との連携は不可欠である。市内の特別支援教育にかかわる対応は、ピアティーチャーの配置という貴重な支援を得ているが、専門性が求められる教員の確保や人材の育成は、一層の充実が求められる。

今日的な課題は他にも山積している中で、多摩市公立小学校校長会の17人は、各学校に共通した課題を明確にし、解決に向けて日常的に有益な情報を共有し、協力し合って取り組んでいきたい。そのために、本会の様々な活動を通して、教育管理職としての資質を高め、学校経営力のさらなる向上を目指していく。

【活動の基本方針】

校長としてのリーダーシップを発揮し、課題解決を図る学校経営の「職能集団」として、全校が創意と活力のある学校経営を実現するために、情報の共有や研修に努める。

II 活動・取組の重点

「活動の基本方針」を受け、今年度の活動・研修の重点を以下の4点とする。校長会の活動・研修を通して、各校の校長が相互に切磋琢磨し、多摩市の子供たちのために高め合う会とする。

- 「教職員の育成」や「教育課程の充実」等各校の課題解決に向けて情報の共有を図る。
- テーマを定め継続的に研修に取り組む。
- 多摩市教育委員会や多摩市公立中学校長会と連携し、学校教育の充実を図る。
- 多摩市の特色である持続可能な開発のための教育・ESDと特別支援教育の推進を図る。

1 経営研修

(1) 研修目標

- ・教育管理職として求められる資質向上を図る。
- ・東京都、多摩市および当該校の課題を的確に捉える力を身に付ける。
- ・課題に対する具体的な解決策を策定する能力を身に付ける。

(2) 実施体制

- ・小学校と中学校で連携して研修を行う。※2回目は小学校のみ開催。3回目は小中別開催。
- ・講演による全体研修は1回目のみとする。

- ・校長選考は論文・面接を中心に研修する。
- ・A B選考も校長選考同様に実施する。

(3) 実施予定

- ①小中合同全体研修 令和6年4月24日(水)
- ②小学校研修 令和6年6月12日(水)
- ③面接指導研修 令和6年9月

2 テーマ研修

(1) 研修テーマ「創意と活力に満ちた教育の推進と学校経営」

サブテーマ「不登校等への適切な対応について」

(2) 研修テーマ設定の理由

本市における不登校、登校しぶり等の件数は増加傾向にあり、市教委としても重点課題として挙げている。多様化している不登校児童等への対応について、あたごスペース、別室登校支援事業も始まり、担当教員や支援員活用を含め、居場所づくりや学習参加の方法等について情報交換をし、有効な手立てを共有することで、各校の対応に生かしていく。

(3) 年間活動計画

- ①全体会(小学校長連絡会時の研修) 5月～1月 各校から報告、協議
- ②ロング研修会 令和6年7月31日(水)
講演「様々な教育課題に対する実践例や備えについて(仮題)」
- ③まとめ、次年度の計画 令和7年1月・2月